

5 | 4 4 | 0

(包紙)

「大谷新九郎様 中井与惣兵衛

内用早々」

5 | 4 4 | 1

(端裏書)

「新九郎様 勘右衛門

急々極内用」

御内々御頼申進候、弥

御障りも無御座、目出度

存候、然ハ八田持口之儀

段々御心配ヲ掛ケ致気毒候

然ル所昨夜藤五郎ヲ以

四歩口御持出被下候様

御返答被下候由昨日者

八田手代参り私迄も

給酔伏り居申候ニ付得逢ひ

不申失礼存候、一方不成

御出精被下此余申分者

無之四歩口と申候而も大銀

之儀ニ而 御太義ニ可有之候得共

先達而より御頼申上候通り

七歩五厘口者御持出し

不被下而者 式番取破談ニ

可相成候間御勘弁不被下

御頼申候、左候へ者八田江も

今式歩五厘口追無、心等

可申心組ニ御座候一口ハ

御無心可申積リニ御座候得共

藤五郎より段々御断之趣

昨夜申置候ニ付押而御頼

難申候得共御存之通八田之

持口之儀私より口出しも難相成

訳合ニ付いかゝ共致し方無之

大心痛致し居申候間能々御聞

分ケ被下是悲共七歩五厘口

者とふぞ御出精可被下御頼申候
悴と参り御頼可申様申付候得共

余り御こまりニ付御直談

申候、即風与申分ニ共相成候而者

此方之為ニも不相成段申聞ケ

断申出候ニ付無抛内書ヲ以

此段御頼申上候間御内答

ニ必々御済シ被下案心申候様

御聞セ為被下偏宜敷御頼申候、以上

十二月九日